

令和5年度第1回青梅市図書館運営協議会会議録

日 時

令和5年7月21日（金）午後6時から午後8時

会 場

青梅市中央図書館多目的室

出席者

（委員）

沖川委員、平岡委員、鎌田委員、園田委員、榎戸委員、川名委員、
柿本委員

（事務局）

遠藤課長、石田主査、
島田館長（指定管理者）、図書館スタッフ1人（指定管理者）

（欠席者）

築地委員

○ 委嘱状の交付

教育長から新委員に対し委嘱状の交付

1 あいさつ

教育長、生涯学習部長、会長

2 自己紹介

出席者全員

3 報告事項

(1) 指定管理者による図書館の管理運営について

（指定管理者）[資料にもとづき説明]

（委員）中央図書館でトイレの水漏れがあり、原因はトイレトーパーを大量に詰め込まれたためとのことですが、不審者情報はあったのですか。また、新町市民センターに不審者が出現したため、図書館の扉を閉じたという報告もあり、それは素早い対応だと思いました。

（指定管理者）中央図書館のトイレの水漏れの件は、危害を加えた不審者

を特定することはできませんでした。新町市民センターの不審者については、市民センター職員が対応し、市民センター外に退出させたようで、図書館利用者への被害はありませんでした。

(委員) 市役所内に設置したブックポストに、例えば、梅郷図書館の本を入れて返却しても良いのですか。

(指定管理者) 構いません。

(委員) 図書館ホームページにアクセスできなかったトラブルについてですが、その間、資料の検索やホームページにある動画の閲覧ができないなど不便でしたので、今後はできるだけこのような事がないようお願いしたい。

(事務局) 承知しました。

(委員) 令和4年度との比較ですが、令和5年度の一般書の団体貸出が102.9%と増加している理由をどのように考察していますか。

(指定管理者) コロナ以前は老人施設の団体利用がありましたが、新型コロナの時に利用を敬遠されていきました。そのような施設が、今年度に入り、団体利用を再開されたことによるものではないかと考えています。

(会長) 令和5年度の団体貸出の雑誌貸出数が、新型コロナ前と比較して5～6割の回復状況なのは、新型コロナの影響ですか。

(指定管理者) 紙の雑誌の発行自体が減っていることや自分の携帯で電子書籍として雑誌が無料で読めることが影響しているのではないかと考えています。

(会長) 中央や各分館の企画展示の充実が目を引きます。特に吉川英治記念館と図書館とのコラボのような横断的な取組は、相乗効果があり、非常に良い企画だと思いました。

青梅の地域資料発掘についても、吉川英治記念館はもちろんですが、例えば、博物館とコラボが出来たら良いのではないのでしょうか。青梅市図書館で持っていない市勢要覧等の古い本が郷土博物館の書庫にあるので取り寄せして展示が出来れば、より良い取組になりますので、そのような場面が生まれたらと思います。

引き続き展示企画の充実を期待します。

(2) 学校司書報告について

(指定管理者) [資料にもとづき説明]

(委員) 学校司書派遣の日数が増え、週1～2回、月4～5回派遣されているため、学校図書館の環境がどの学校も非常に良い環境になってきていると思います。

第一小では、学校図書館の休み時間の貸出について、学校司書という大人が配置できたため、こども達を自由に行かせることができる日数が増えています。そのほかに、司書教諭が企画したポップコンテスト等の企画に対し、学校司書が協力し、こどもたちが新しい本と出会い、本を借りる機会を作っています。

また、蔵書管理について、教員や司書教諭だけでは限界があったが、学校司書派遣増加によって、図書の更新作業がかなり進みました。

できれば、もっと学校司書の派遣を充実出来たら良いと思います。

(委員) 最近の学校図書館は、中学校の委員会生徒や学校司書が作成した、本を紹介するカラフルなポップが棚に並び、明るい図書館となり、本を手に取り易い環境になっています。

学校図書館が活発に使われるようになると、こども達の読書活動増えていくと思います。吹上中では、今年度から朝読書を取り組んでいます。これがこども達の読書活動の伸びに繋がると良いと思っています。

(委員) 学校図書館で様々な取組があることは良いと思います。また、本でなくとも、百人一首等の楽しい特集もあると良いと思います。

(委員) 報告の中で、研磨機で本の天と地と小口などの汚れを削ったとありましたが、本を傷めずにできるのですか。

(指定管理者) 青梅市図書館には、研磨機はないため、紙やすりを使用することがあります。今回、学校で行ったのは、おそらく厚みのあるしっかりした本で、薄い本ではないと思います。

(委員) 様々な取組が報告されていますが、最近はこのような取組を

しないと、図書館に立ち寄らない、読書しない状況なのですか。
(指定管理者) はい、そのとおりです。毎日新聞で、秋の読書週間時に読書調査を実施していますが、こどもが本を読まない割合である「不読率」が、5割近い数字になっています。それをいかに低くしていくかが図書館に問われていると思います。
(会長) 学校司書は、意義深い活動ですので、ここで出た意見等も参考にしながら、引き続き充実していただければと思います。

(3) 第7回青梅市図書館を使った調べる学習コンクールについて

(指定管理者) [資料にもとづき説明]

(委員) 今のこども達は、パソコンやインターネットを使用して調べる方法がほぼ主流で、本から調べる機会が減ってきていると思いますし、そのような発想がなくなっているように感じます。このコンクールは、色んな資料に当たる場合に、本は非常に貴重な資料であることが学べる良い企画だと思います。

(委員) 社会的に生成AIが話題になっていますが、AIを活用して作った文章なのかを、見分けることが出来ないのではと言われていています。今後、コンクールの審査で、どう判断するかが難しくなりませんか。

(会長) 生成AIの使用について、コンクール本部で何か基準を定めていますか。

(指定管理者) このコンクールは、「引用文献」の記述がないと審査対象になりません。生成AIでは引用がないかもしれませんし、引用がない場合、実際はどこからの文章なのか審査員が検索すると思います。国会図書館で、全文検索が出来るソフトが出来たようですので、それを使えばどの文献からか、あるいは全くAIが作った文章なのかが分かるかもしれませんので、本部としては、コンクール審査について、あまり心配はしていないと思います。

(会長) 夏休みの宿題としている学校が7校ありますが、これは、前年度まであまり聞いた話ではなかったので、それだけ積極的になっているのでしょうか。

調べる学習コンクールに取り組むのは、通常の宿題をこなすよりもグレードが上がるので、こども達にとってはなかなか大

変で、保護者も励ましながら作っていると思います。

出来るだけ自分で問題を見つけ、自分で課題を設定し、それを自分で解くという作業は大事な作業で、大学での取組み方と同じです。正に主体的で深い学びを象徴する取組だと思えます。

青梅市では年々応募数も増えて定着し、更には全国大会でもかなり良い成績を修める作品も出てきていますので、今年も、良い作品を期待したいと思えます。

4 その他

(1) 第五次青梅市子ども読書活動推進計画策定について

(事務局) [資料にもとづき説明]

※質疑なし

(2) その他

(事務局) [次回の運営協議会について等]

(会長) 以上で予定した案件は全て終了いたしました。委員の皆様方、長時間にわたりまして御協議を賜り大変ありがとうございました。

これをもちまして令和5年度1回青梅市図書館運営協議会を閉会とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

以上